

第103号

酪農とちぎ



第28回栃木県ホルスタイン共進会より

- 1 ページ 表紙
- 2～3 ページ 平成30年度上半期事業実績（各部門）
- 4 ページ 栃木県酪農フェア2018開催
- 5 ページ 第28回栃木県ホルスタイン共進会
- 6～7 ページ 東西南北（各支所）
- 8 ページ 部課だより（業務部）
- 9 ページ 部課だより（生乳受託課）
- 10 ページ 理事会だより、お礼、お知らせ、市場成績

「キャラクター^{えみ}笑味ちゃん」



みんなのよい食プロジェクト



平成30年度上半期事業実績

上半期の各部門を合わせた事業総利益は3億8596万円(計画比105.8%)となり、事業利益においては計画差2770万円増、経常利益においても計画差2951万円増の実績になりました。大きく計画を上回った要因は、購買事業において全酪連等からの配当金が計画外にあったためであり、それらを修正した場合も経常利益で592万円計画を上回る状況となります。

① **一、生乳受託事業**
生乳生産状況等については、生乳生産量は第1四半期において計画比100.3%と計画通りの生産となったが、6月末の例年より早い梅雨明け以降猛暑日が続いたこともあり7月は計画を2.0%下回る実績となり、8・9月は若干の回復もあったが、上半期の生産量は11万7582t(前年比98.5%)、計画比99.6%と計画を下回りました。

② **二、購買事業**
上半期の飼料供給量は、夏の暑の影響等で飼料の減もあり、濃厚飼料においては3万8032ト(計画比96.5%)と計画を下回りました。しかし自給飼料の利用率は引き続き増えている中、稲刈りやCSの前倒しでの供給及びメ

③ **三、酪農指導及び流通事業**
酪農指導事業においては酪農経営の安定を図るため、巡回指導を通し飼養管理改善を行ったほか、各種補助事業を推進すると共に、組合・制度資金借入等の相談や組織活動支援にも努めてまいりました。また、酪養管理改善の指導支援については、ラクトコーダーを利用した搾乳状況の点検、機器の洗浄状態の確認を行い、それに伴う改善策の提案を行いました。また、バルクスクリーニング検査の結果から個体細胞の検査、分房別の検査を行い、体細胞の検査、分房別の検査、飼養管理傾向が見られたこと脂肪分の低下傾向が見られたこと頻りに上げて、その改善に努めてまいりました。

④ **三、酪農指導及び流通事業**
酪農指導事業においては酪農経営の安定を図るため、巡回指導を通し飼養管理改善を行ったほか、各種補助事業を推進すると共に、組合・制度資金借入等の相談や組織活動支援にも努めてまいりました。また、酪養管理改善の指導支援については、ラクトコーダーを利用した搾乳状況の点検、機器の洗浄状態の確認を行い、それに伴う改善策の提案を行いました。また、バルクスクリーニング検査の結果から個体細胞の検査、分房別の検査を行い、体細胞の検査、分房別の検査、飼養管理傾向が見られたこと脂肪分の低下傾向が見られたこと頻りに上げて、その改善に努めてまいりました。

⑤ **三、酪農指導及び流通事業**
酪農指導事業においては酪農経営の安定を図るため、巡回指導を通し飼養管理改善を行ったほか、各種補助事業を推進すると共に、組合・制度資金借入等の相談や組織活動支援にも努めてまいりました。また、酪養管理改善の指導支援については、ラクトコーダーを利用した搾乳状況の点検、機器の洗浄状態の確認を行い、それに伴う改善策の提案を行いました。また、バルクスクリーニング検査の結果から個体細胞の検査、分房別の検査を行い、体細胞の検査、分房別の検査、飼養管理傾向が見られたこと脂肪分の低下傾向が見られたこと頻りに上げて、その改善に努めてまいりました。

中止の協力を行ったことや、利用をから計画を下回る実績となりました。また、導入事業においては、Jミルクの酪農乳業産業基盤強化特別対策事業によるオーストラリアからの導入や組合員間での導入があり計画を上回りました。

四、改良事業

凍結精液販売事業の乳用牛は、クラスタ事業及び後継牛安定確保対策事業により性別別精液の利用率を促進し、クラスタ事業分給が円滑に確保でき、計画を前倒しに供給でき、夏場の授精頭数減少等により、通常精液の販売回数が増え、雄牛の確保に努め販売増を図りました。一部人気精液の制限がありましたが、鳥取県有牛の譲渡本数制限がなくなった影響もあり、計画を上回る実績となりました。乳用牛、肉用牛精液を合わせて1万9,489本となりました。(計画比96.2%)

受胎率向上事業は、乳用牛精液と同様にクラスタ事業での性別別授精及び和牛受胎率向上計画により計画を上回る実績となりました。(計画比101.4%)

登録業務は、血統登録は自動登録へ5件の新規加入があったことと、事故の解消に努めた結果、計画を上回りました。(計画比108.6%)

牛群検定事業は、牛群検定事業に努め、上期において新規で1件が加入しました。

五、診療事業

繁殖検診事業は、夏場猛暑の影響で妊娠鑑定が少なかったが、8%の乳房炎検診事業は、バルクスクリーニング検査を全支所で取り組み、ほぼ計画通りでした。(計画比99.5%)

響で妊娠鑑定が少なかったが、8%の乳房炎検診事業は、バルクスクリーニング検査を全支所で取り組み、ほぼ計画通りでした。(計画比99.5%)

分房乳検査は、依頼が少なく計画を下回りました。(計画比68.6%)

受胎率向上事業の採卵は、ホルスタインの依頼が少なく計画を下回りました。(計画比92.1%)

I.V.F.補助事業の和牛卵やF1移植は、補助事業のふれあい牧場で実施した。依頼が多く計画を上回りました。(計画比127.8%)

精液検査の同期化による授精回数が増え、計画を上回りました。(計画比102.7%)

ふれあい牧場や葛巻放牧場関係は、巡回件数が多く計画を上回りました。

平成30年上半期 予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)	
生乳販売	収益	14,828,237	14,809,185	▲ 19,051	99.9
	費用	14,582,941	14,567,356	▲ 15,584	99.9
	利益	245,296	241,828	▲ 3,467	98.6
購買	収益	3,864,180	3,865,806	1,626	100.0
	費用	3,772,420	3,748,654	▲ 23,765	99.4
	利益	91,760	117,151	25,391	127.7
酪農指導	収益	108,939	107,555	▲ 1,383	98.7
	費用	115,788	116,869	1,081	100.9
	利益	▲ 6,849	▲ 9,313	▲ 2,464	-
流通	収益	238,910	265,095	26,185	111.0
	費用	238,433	264,484	26,051	110.9
	利益	477	611	134	128.1
改良	収益	192,853	192,058	▲ 794	99.6
	費用	179,197	176,825	▲ 2,371	98.7
	利益	13,656	15,233	1,577	111.5
診療	収益	22,943	23,237	294	101.3
	費用	8,509	8,270	▲ 238	97.2
	利益	14,434	14,966	532	103.7
牧場	収益	70,681	72,151	1,470	102.1
	費用	64,597	66,660	2,063	103.2
	利益	6,084	5,490	▲ 593	90.2
事業総収益	19,326,743	19,335,090	8,347	100.0	
事業総費用	18,961,885	18,949,121	▲ 12,763	99.9	
事業総利益	364,858	385,969	21,111	105.8	
事業管理費	361,074	354,482	▲ 6,591	98.2	
事業利益	3,784	31,487	27,703	832.1	
事業外収入	12,146	13,635	1,489	112.3	
事業外費用	5,344	5,023	▲ 320	94.0	
経常利益	10,586	40,099	29,513	378.8	

同 株式会社酪農とちぎアグリサポート 予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)
収益	41,470	40,315	▲ 1,154	97.2
費用	40,385	41,013	628	101.6
利益	1,085	▲ 697	▲ 1,782	-

りました。(計画比112.9%)

診療事業収支については、事業利益で149.6万円(計画比103.7%)となりました。

六、牧場事業

牧場事業は、牧場の飼養、圃場管理全般の作業等を酪農とちぎアグリサポートに委託し、効率的な事業運営が図れました。飼養管理、衛生管理を徹底し、発育向上に努めた結果、授精月齢の短縮が図れました。(平均24.4ヶ月齢分娩)

預託頭数は2692頭(計画比102.0%)となり、小規模放牧場と多岐な用途に利用し、機械修繕費等が多岐にわたる計画を上回りました。

七、経営管理

通費削減は、大会の開催時期変更により、修繕費の減少及び導入設備の減価償却による費用の減少が、計画を上回りました。(計画比103.8%)

円を下回る実績でした。



栃木県酪農フェア2018開催



10月13日(土)、栃木県畜産酪農研究センターにおいて恒例の「ミルクの国とちぎ 栃木県酪農フェア2018」が、栃木県酪農協会主催、県内5酪農協後援、県牛乳普及協会共催により盛況に開催されました。

酪農フェア会場は、「ミルクの国ゾーン」と「消費者とのふれあいゾーン」とに分かれ、ミルクの国ゾーンでは、第28回栃木県ホルスタイン共進会が開催され県内各地から57頭の乳牛（ホルスタイン種）



開 会 式

の審査が行われました。また、共進会会場外側では、農機具や資材等を酪農関連業者が展示出店し、会場を盛り上げ、酪農家とのコミュニケーションが図られました。

消費者とのふれあいゾーンでは「ミルク王国フェア」と題し、以下のイベントが開催されました。

- ① 「栃木県産牛乳試飲コーナー」
 - ② 「牛肉の試食コーナー」
 - ③ 「ミルット子供広場コーナー」
(恒例のバルーンパフォーマンス、牛丸ふわふわ、ロールベール落書き等)
 - ④ 「バター作り体験コーナー」
 - ⑤ 「ミルクバスボム（入浴剤）工作コーナー」
 - ⑥ 「ミルクドーナツ販売コーナー」
 - ⑦ 「乳製品販売コーナー」
(ジェラート販売・各種ヨーグルト販売等)
 - ⑧ 「搾乳模擬体験コーナー」
 - ⑨ 「手作りピザ体験教室」
 - ⑩ 「沢山のフード出店コーナー」
- 等々、盛りだくさんの催しに各

コーナーにおいて賑わいをみせていました。

関係者をはじめ一般消費者の



栃木県産牛乳試飲コーナー



バルーンパフォーマンス

方々へも乳牛や乳製品を通した理解醸成に繋がったことと拝察いたします。



搾乳模擬体験教室



手作りピザ体験教室





第28回 栃木県ホルスタイン共進会

北海道、上士幌町の小椋茂敏氏を審査員に迎え未経産4部、経産6部、57頭の精鋭が県内より集結しハイレベルな改良成果を競い合いました。厳正なる審査の結果、未経産の部名誉賞・準名誉賞には栃木県立那須拓陽高等学校が輝き、経産の部名誉賞に当組合より（5〜7部）高塩浩典氏、（8〜10部）に鷹箸仁美氏、経産の部準名誉賞（5〜7部）に松井光氏、（8〜10部）に小針勤氏が輝きました。各部位上位入賞牛結果は別表の通りです。入賞者の皆様おめでとうございます。



小椋審査員



上位入賞者と共に

第28回 栃木県ホルスタイン共進会入賞牛一覧表

開催期日：平成30年10月13日（土）

開催場所：栃木県畜産酪農研究センター（那須塩原市千本松）

審査員：小椋茂敏氏（上士幌町農業協同組合）

出品頭数：57頭

出品番号	生年月日	名号	父名号	出品者	
				住所	氏名
名誉賞					
未経産1〜4部					
302	H29.4.15	タクヨウ キヤシー クラツシュウ	マーベリック クラツシュウ	那須塩原市下永田	栃木県立那須拓陽高等学校
経産5〜7部					
702	H27.8.5	ハーネスファーム ローソリテイ スキー E T	コムスター ローソリテイ E T	那須塩原市壘沼	高塩 浩典
経産8〜10部					
801	H27.4.21	ウイングバレー カリバー アポロ	レークエフェクト アルタカリバー E T	日光市大室	鷹箸 仁美
準名誉賞					
未経産1〜4部					
209	H29.6.11	タクヨウ ファイバー ワーデン ベニー	クラックホーム ファイバー E T	那須塩原市下永田	栃木県立那須拓陽高等学校
経産5〜7部					
606	H27.11.23	MM インテグ スパーク	シレット ティーウエーブ スパークリング E T	那須烏山市大里	松井 光
経産8〜10部					
1003	H25.8.31	コバリ セジスアレキサンダー ショツカー	ゴールデンオクス ST アレキサンダー E T	那須塩原市青木	小針 勤

優等賞1席

部	出品番号	生年月日	名号	父名号	出品者	
					住所	氏名
1	106	H29.10.3	コバリ アシユリズ ファニング ドアマン	バルビツソ ドアマン E T	那須塩原市青木	小針 勤
2	209	H29.6.11	タクヨウ ファイバー ワーデン ベニー	クラックホーム ファイバー E T	那須塩原市下永田	栃木県立那須拓陽高等学校
3	302	H29.4.15	タクヨウ キヤシー クラツシュウ	マーベリック クラツシュウ	那須塩原市下永田	栃木県立那須拓陽高等学校
4	407	H29.1.2	タクヨウ ワーデン ゴールドハム	UFM-ダブス ゴールドロイ E T	那須塩原市下永田	栃木県立那須拓陽高等学校
5	509	H28.6.27	LWL ポートレイト AW マツカチン E T	デス BKM マツカチン 1174 E T	那須塩原市埼玉	永森 啓太
6	606	H27.11.23	MM インテグ スパーク	シレット ティーウエーブ スパークリング E T	那須烏山市大里	松井 光
7	702	H27.8.5	ハーネスファーム ローソリテイ スキー E T	コムスター ローソリテイ E T	那須塩原市壘沼	高塩 浩典
8	801	H27.4.21	ウイングバレー カリバー アポロ	レークエフェクト アルタカリバー E T	日光市大室	鷹箸 仁美
9	904	H26.7.22	プロスペリティー ファイバー リー	クラックホーム ファイバー E T	那須塩原市青木	和泉 正行
10	1003	H25.8.31	コバリ セジスアレキサンダー ショツカー	ゴールデンオクス ST アレキサンダー E T	那須塩原市青木	小針 勤



那須高原支所

心も身体もぼかばか！ヨガ講習

女性会那須支部（竹内禮子支部長）は、10月30日に那須町文化センターにて、那須町在住ヨガインストラクター岩下友希氏を講師にお招きし、ヨガ講習を行いました。酪農は膝や腰に負担が掛かりやすい職業です。ヨガと言われると難しいイメージを持つかもしれませんが



ヨガ体験でリフレッシュ！

ヨガインストラクター ▶ 岩下友希氏

せんが、今回はお手軽に出来る方法を体験しました。

ヨガは腹式呼吸をしながらゆっくりと時間をかけて行うストレッチ方法です。身体の姿勢改善（歪み改善）につながり、継続することでしなやかな筋肉を作り上げ、脳と筋肉の関連性を良く把握することができ、怪我防止にも良いと言われます。

写真は座った状態で背を伸ばし、あばらを意識してねじること、お尻や背の筋肉を良く伸ばすことができるポーズです。ほかに、沢山のストレッチ法を体験し、身体がすっきりしたとの声を多く聞きました。

身体をぼかばかは心もぼかばかにします。これからの寒い冬を乗り越えるためにも、是非皆さんも、今日明日からでもヨガ（ストレッチ）を日常に取り入れてみましょう！

次世代育てる新牛舎見学

那須地域酪農組合高久班（南條弘充班長）では、11月9日に班員15名参加のもと、栃木県農業大学校への視察研修会を行いました。栃木県農業大学校では、酪農や肉用牛についてICT（情報通信技術）を活用した技術を学べる畜産教育施設「ドリーム牛舎」が今年



ドリーム牛舎見学

3月末に完成し、次世代の担い手育成と先端技術の普及に力を入れています。実際に分婉感知センサー（牛温恵）や発情感知センサー（牛歩）等といったICTを駆使した飼養管理の現状を見学させてもらっただけでなく、ICTを導入する際の注意点や使用方法についてもお話し頂きました。

参加された班員の中には、以前より牛温恵に興味を持たれていた方もおり、「現物と使用側の生の声を聞けることが出来て参考になった。」という感想のほか、県農大卒業の参加者からは「以前あった施設がこのように変わった様を見て、とても感慨深い気持ちになった。」との声もありました。限られた見学時間ではありまし

たが、今後の酪農業界を引っ張って行く新たな人材育成の場を見学でき、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。

宇都宮支所

女性後継者とお嫁さんの交流会

「地域内において、若い女性同士の交流を深めてもらいたい」

その様な親の思いから、昨年度より那須南地域管内では、女性後継者とお嫁さんを対象に、「後継者の会」が発足されました。現在は12名の対象者がおり、10月27日に那須烏山市の「クローバース テーキハウス」にて、2回目の交流会を開催しました。

当日は、世話人として女性会那須南支部長の興野礼子さんをはじめ、9名（うち子供3名）が参加され、食事と会話を楽しまれました。まず、興野さんが挨拶され、それから参加者より自己紹介をして頂きました。はじめはテーブル席の隣同士や、向かい側の方との話でしたが、徐々に会話が共有され、結婚や子供のことはじめ生活全般のことなど、話題豊富にみんなで会話されていました。会話の中には、酪農も勉強したいとの声もあり、今後がとても楽しみで



す。また、これからの活動計画も検討され、2月から3月にかけてイチゴ狩りとクローバーでの食事をすることに決定しました。

この「後継者の会」は、これからも継続して開催して参ります。次回が初参加の方も大歓迎ですので、ぜひ「仲間作り」に参加して下さい。お待ちしております。



後継者の会の皆さん ～和気あいあいと談笑～

支所協議会全体研修会を開催

11月14日、支所活動推進協議会（松井実会長）主催の研修会が、宇都宮支所に於いて開催され、23名が出席しました。今回は、「今後の我々経営継承と事業展開」をテーマに、当支所管内の酪農家3名（木村康彦氏・黒尾賢一氏・小口和則氏）により、質疑応答形式で行いました。司会



3名の発表者と司会者による質疑応答

は、松井会長と金田修一さんが担当し、現在に至るまでの経緯や今後の経営展開等について、3名に質問しました。黒尾さんと小口さんからは、サラリーマンを経ての就農や、規模拡大をした時の決意等についてお聞きし、木村さんからはお父様から事業継承した時の手続きや、法人としてのメリット等についてお聞きしました。3名からは、親が子に対し理解を持ち対応してくれたことや、酪農へのプライド、そして何より健康が大事であることがありました。最後に、出席された方々が身近な仲間の話を参考に、今後の経営の一助に繋がることを期待しています。

県南支所

2地域酪農組合合同研修会を開催

11月6日、芳賀地域酪農組合（大瀧信夫組合長）と河内南部・下都賀地域酪農組合（小池久夫組合長）による合同研修会を県南支所にて開催し、40名が参加しました。今回の研修は、千葉暢子氏（宇都宮記念病院総合健診センター保健師・産業カウンセラー）を講師として、「続けるための極意」脳科学を用いて、物事を続けるためのポイント」と題し講演をいただきました。

第100回を迎えた夏の甲子園や箱根駅伝を例に挙げて「続ける」ことの意義や「なぜ続けられるか」の説明があった。単に続けるだけでは、思ったような成果は得られないという。根性だけでは続かないのだ。小さな問いや目標を設定し続け、それらを達成した際に小さな報酬や喜びがあれば、人は続けることができる。「難しすぎず、簡単すぎない小さな目標」の設定



講師の千葉暢子氏

が習慣形成のポイントとなる。

「言われた通りに実行してきた人と、自分で考え実行してきた人

では、限界に達した後の伸びが違う」という言葉が印象的だった。質疑応答も活発に行われ、有意義な研修会となりました。

研修会終了後には、支所協議会事業として花の苗を配布しました。今後も環境美化に取り組み、チェックシートの記帳・記録と併せて、安心・安全な生乳生産をお願いします。なお、県南支所管内の牛舎環境調査は12月3～12日に実施します。

また、例年12月に開催しておりました県南支所全体交流会を、平成31年3月26日（火）に開催することに決定しました。期日が近づきましたら、改めてご案内いたします。



熱心に耳を傾ける参加者



部課だより

業務部

● 粃米サイレージ (SGS) の製造

昨年10月に山形県を訪れ、真室川町農協（現在は合併し、もがみ中央農業協同組合）の真室川町秋山牧場と株式会社和農産を視察しました。そこでは地域の生き残り戦略として、地元の資源である水田の有効利用を図り、粃米サイレージを製造する取り組みを行っています。

水田農家に飼料用米を作付けしてもらい、コンバインで刈取したら農協側で用意したフレコンバツクに粃を入れ、そこから先は農協側が運搬・製造を行うという段取りです。水田農家は乾燥等の手間とコストが省けることがメリットであり、高齢化・後継者不足が進む現状に適合した取り組みと言え

ます。また、水田農家は新たな技術獲得や資本投下が無いので、参加が容易であることも良いところでは。

製造は、プレスパンダーという粃殻を粉碎する機械を用い収穫した粃を粉碎します。その際に熱がかかり、澱粉がアルファ化され消化が良くなるということです。酪農家にとっては、安価で

良質な発酵飼料を利用できるというメリットが出てきます。水分が30%になるように加水し、500kg単位で密閉を行い、約1ヶ月後に再脱気を行います。

この取り組みを手本に、株式会社酪農とちぎアグリサポートにおいて、粃米サイレージの製造を試みました。水田農家に合計38町歩程協力を頂き、300t超の粃米



プレスパンダー

サイレージが製造できました。現在再脱気作業をしているところで、作業中に中身を確認してみると良好な芳香で、初年度にしては上々な仕上がりに感じます。

水田農家からは、「来年紹介したい水田農家がある」などの反響もあり、周辺団体からの問い合わせも多く、期待が持てる取り組みであると感じております。



再脱気



1ヶ月経過



生乳受託課

平成30年10月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較し98・3%（1万9206t）と9月と同程度で推移し、16ヶ月連続前年を下回る状況です。各支所の受入乳量は、那須高原支所1万2630t（前年比98・5%）、宇都宮支所2437t（同98・3%）、県南支所4139t（同97・6%）となり、出荷者数は、前年同月より18戸減の410戸（内、学校は1校）でした。

10月度の組合平均乳質は、脂肪率3・76%（前年差▲0・04%）、無脂固形分率8・79%（同▲0・01%）、体細胞数22・53万（同+0・90万）と各乳質とも前年同月を若干下回る結果となりました。

関東生乳販連の10月総受託乳量は8万6135t（前年比96・9%）となり、本組合同様16ヶ月連続し前年を下回る状況となりました。

用途別の販売数量は、飲用牛乳向けは受託乳量前年比並みの98・0%、加工向けは前年比72・3%と大きく減少しました。

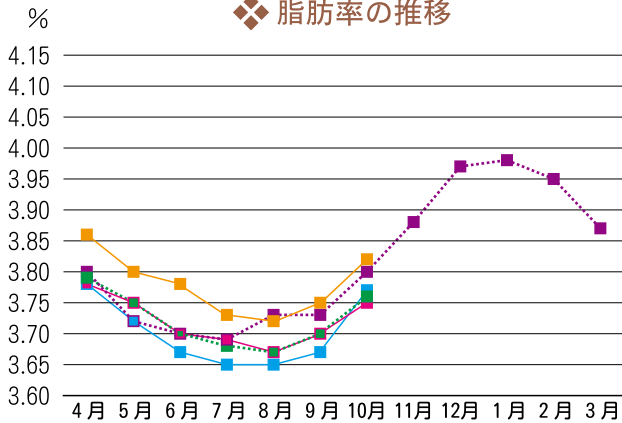
全国の生産量は、9月度に北海道胆振東部地震の影響から北海道

が前年比94・8%と減少し、全国でも96・2%と9か月振りに前年を下回りました。10月度は北海道が101・2%まで回復し、都府県は97・5%と37ヶ月連続前年を下回り、全国の生産量は99・5%と2ヶ月連続で前年を下回りました。尚、平成30年10月の生産量・乳質、関東生乳販連の用途別販売数量は別表のとおりとなっております。

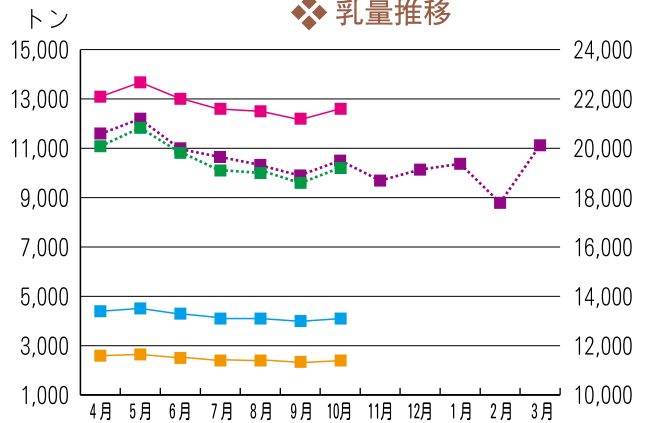
平成30年度 関東生乳販連用途別販売数量（単位：kg・%）

用途	10月期実績	前年同期実績	前年比	10月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	69,378,539	70,765,559	98.0	484,734,317	491,996,668	98.5
(うち学校向け)	12,733,907	12,493,347	101.9	67,017,026	68,660,530	97.6
はっ酵乳向け	12,471,590	12,588,033	99.1	88,982,746	93,171,761	95.5
特定乳製品向け	2,913,355	4,030,645	72.3	37,915,924	43,791,850	86.6
(うち委託加工向け)	0	0	-	0	0	-
生クリーム向け	1,305,688	1,415,703	92.2	9,867,437	10,748,933	91.8
チーズ向け	66,154	56,530	117.0	467,916	433,683	107.9
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	86,135,326	88,856,470	96.9	621,968,340	640,142,895	97.2
加工比率	3.38	4.54	-	6.10	6.84	-

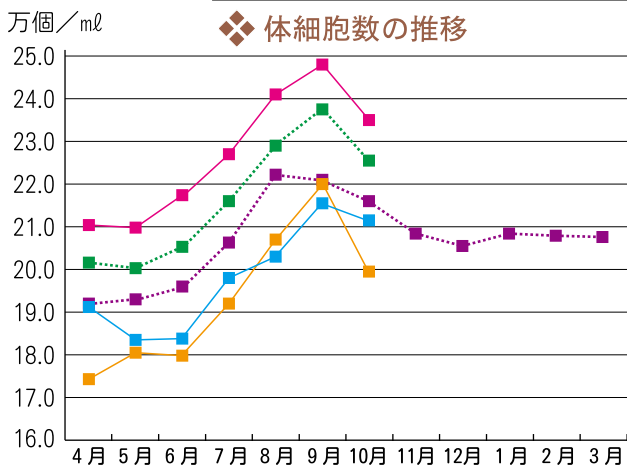
◆ 脂肪率の推移



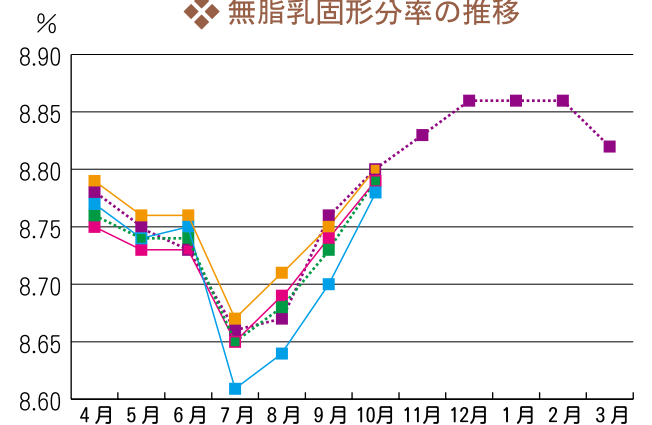
◆ 乳量推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



理事会だより

9月度理事会（9月28日）

報告事項

- (一) 組合員の加入について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 職員人事について
- (五) 組合プール乳価について
- (六) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について
- (七) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 8月度事業実績について
- (二) 義援金の取組について

10月度理事会（10月31日）

報告事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 組合プール乳価について
- (四) 特別管理未収金の報告について
- (五) 子会社の上半期事業実績について

(六) セファゾリンDに係る損害賠償について

協議事項

- (一) 9月度及び上半期事業実績について
- (二) 義援金の協力について
- (三) 固定資産の取得について
- (四) 子会社の新規事業について

お礼

《北海道胆振東部地震並びに豪雨・台風災害に伴う酪農被害への義援金のお礼》

組合員の皆様よりご協力いただきました義援金は、関東生乳販売農業協同組合連合会を通して（一社）中央酪農会議へ送金しましたので報告致します。

組合員戸数 223戸
 義援金額 156万4千円
 ご協力有難うございました。

お知らせ

《職員人事》

退職者（9月2日付）

総務部付 青山 隆彦

《年末・年始の業務体制》

年末年始の業務は左記のとおりに対応いたします。

- 12月30日(日) 生乳受入業務
- 12月31日(月) 生乳受入業務
- 1月1日(火) 生乳受入業務
- 1月2日(水) 生乳受入業務
- 1月3日(木) 生乳受入業務

※尚、抗生物質残留検査等は通常通り実施します。

【連絡先】

那須高原CS

TEL 〇二八七―六四―四一七七

宇都宮検査室

TEL 〇二八―六六〇―二二一六

※その間、本所・支所・各事業所は年末年始の休業とさせていただきます。



10月度 ホクレン初妊牛市場成績 [単位：千円(税込)]

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
十勝	10月10日	483	336	69.6%	895	73	50	1,104
釧路	10月17日	296	236	79.7%	921	19	15	1,116
根室	10月18日	494	409	82.8%	908	37	34	1,139
豊富	10月19日	352	242	68.8%	848	2	1	996
十勝	10月23日	543	439	80.8%	940	104	86	1,185
合計		2,168	1,662	76.7%	902	235	186	1,108
前月		2,397	1,903	79.4%	910	222	190	1,101
前年同月		2,428	1,802	74.2%	847	212	179	1,018

初妊牛の今後の動向は2～3月分娩牛が中心となります。10月の乳牛市場では依然として道内の新規就農者・メガ、キガファームの大型導入からの引き合いは強いものの、前月と比較しほぼ横ばいの結果となりました。例年年末にかけて出品頭数が増加し、価格は軟調に推移することが多いものの、最近の荷動きの速さから春産みの出品が多くなり、都府県からの注文も入るために全体としてはやや強含みで推移するものと思われま。導入を希望される方は腹条件・分娩月によって手配に時間がかかることも予想されますので、十分余裕をもってのお申込みをよろしくお願い申し上げます。

10月度 県内家畜市場成績 [単位：円(税込)]

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
那須(10/30)	ホルス雄	138	62	204,120	7,560	142,873	▲7,679
	F 1雄	107	64	385,560	54,000	279,881	11,336
	F 1雌	106	60	311,040	95,040	221,308	18,667
館林(10/27)	ホルス雄	1	97	166,320	166,320	166,320	▲2,700
	F 1雄	8	99	399,600	189,000	338,040	▲3,240
	F 1雌	7	98	313,200	274,320	287,589	14,658

今回の初生牛取引価格は前回から比較し、全体的にやや強含みで推移しています。前号でご報告しました6月をピークにゆるやかな下降が続いている相場は、10月においても継続した流れとなっています。今後年末が近づくにつれ同様の値動きが継続し、全体では横ばいからやや弱で推移するものと思われま。

